

3/12(土) まいご/倫理号がす。春の息吹が感じられる今日の頃 年度末のかがりを通  
で153? 地球倫理の学について奥へ深く研べ!!

今週の

倫理

3月のテーマ | 地球倫理

2022. 3. 12~3. 18

1272号

高度成長時代の経済社会活動の拡大により高密度な経済社会が形成されました。その一方で環境問題は深刻化していきましました。一九九七年の京都議定書を始め、温暖化に対する国際的な条約や二〇一五年には国連サミットにて採択された維持可能な開発目標(SDGs)などの取り組みが行なわれるようになりました。

オーストラリアで開催された二酸化炭素による地球温暖化に関する初めての世界会議が開催された一九八五年、倫理研究所の第二代理事長・丸山竹秋は、環境問題が近未来の人類の生存を揺るがすほどの大問題になる実情を直視し、「調和協調」「自己共尊」を理念に掲げ、「地球倫理」を提唱してから、三十七年が経過しました。

丸山竹秋の掲げた理念に賛同し、環境倫理に加えて、地球そのものや空気や水、電気など人間を取り巻く自然的存在物をも意識する経営者も、全国各地で増えてきているようです。

その一例に「人類と地球の永続的な発展に貢献する」ことを経営理念に掲げ、環境に配慮している企業があります。約二十年前より空調システムを独自に開発・販売し、これまで省エネ大賞(経済産業省後援)特別賞や県主催のものづくり大賞などを受賞するなどその品質が評価され、全国の公共施設や病院等に採用されています。

M社長は、建築設計事務所を本業として県内で数多く手がけ、デザイン賞などを受賞し、創業時は順調でした。転機が訪れた

## 地球倫理に賛同し 実践を積み重ねる



のは、平成十六年、義父が経営する会社の経営不振を突端として資材の納品が滞り、経営危機を迎えた時のことです。

純粋倫理の学びを通して、これまでの経営者としてのあり方を見つめ直したM社長は、環境に配慮した建築を志し、数年間かけて独自の空調システムを開発したのです。

その後、「地球倫理」という視点を学び得たM社長は、環境に優しいだけでなく、各々に宿る生命の調和を大切に社員と共に感謝の念を深め、さらなる技術革新に挑んでいきました。

人間にとって自己の命ほど大切なものはないでしょう。地球に空気や水があるからこそ、生命は続きます。命の大切さの認識は、人間にとって最も尊い心であるといえるのです。地球には生物や無生物が存在し、共に関連し合っており、その存在が維持されています。つまりは、人や物などに対して、尊厳の認識を深めることが大切なのです。

環境破壊は、自らの首を絞めていると同様です。破壊の根源となる人間のエゴから脱却し、互いに責め合い、奪い合う世界から、共に尊び生きる道が求められています。循環型社会を目指した取り組みは大切です。加えて、地球倫理の視点に立ち、水やガソリンなどの地球資源の節約やゴミの分別、清掃などの実践に取り組みみましょう。日頃から、すべての命を育み、営みを支える存在であるとの視点に立ち、こうした実践・取り組みを推進することが、地球の安泰につながる道といえるでしょう。